

# コロナ禍における米中貿易 ～グローバルサプライチェーン見直しは進むのか～

## ＜要旨＞

2018年以降の米中対立の激化やコロナ禍により、中国を基軸の一つとするグローバルサプライチェーンのリスクが強く意識されるようになった。一方で、サプライチェーンの見直しには時間がかかるほか、中国と同等の生産体制を築ける移転先は限られており、大規模な生産シフトは生じにくいと考えられる。

実際、米国の輸入における中国シェアは、米中対立の激化に伴い全ての品目で低下し、コロナ禍でも低付加価値品を中心に低下が続いている一方で、コロナ禍を通じ、先進国のシェアが低下し中国のシェアが再び上昇する品目もあった。先進国で人手不足が長期化し生産停滞が続けば、高付加価値品を含め一部の品目については中国へのシフトが定着化する可能性がある。グローバルサプライチェーンの見直しは、中国から他国への拠点シフトだけではなく、新たな領域に中国が組み込まれる形も考えられよう。

## 1. はじめに

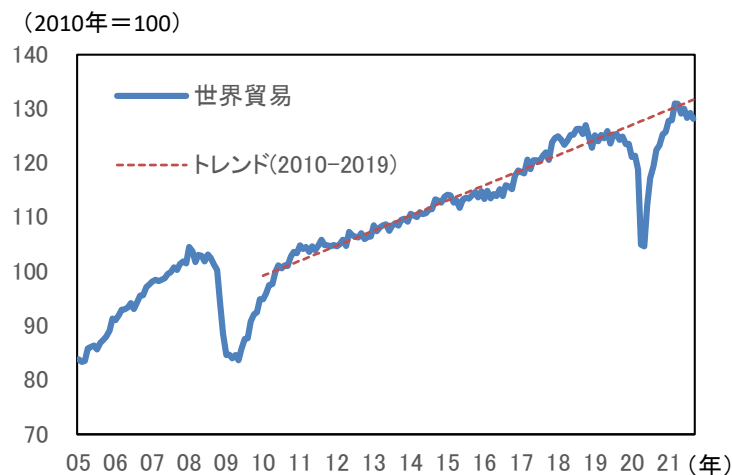
2018年より激化した米中貿易摩擦の解決をみないままコロナ禍に陥り、中国を基軸の一つとするグローバルサプライチェーンのリスクが強く意識される局面が続いている。

従前グローバルサプライチェーンの広がりや経済活動の最適化や災害等による生産停止リスクの低減、開発途上国の発展などのメリットをもたらしてきた。しかし米中貿易摩擦を機に、中国に生産拠点が集中することによる政治的リスクが強まり、さらにコロナ禍では世界中で渡航・行動規制によりヒト・モノの移動が停滞したため、サプライチェーンを通じてショックが増幅されるというリスクが顕在化した。一方で、グローバルサプライチェーンの見直しには時間がかかるほか、中国と同程度

の生産体制を築ける移転先は限られていることなどから、中国からの生産シフトが大規模に進むとは考えにくい。

以下では、米中を中心にコロナ禍の貿易動向を整理し、今後米国の輸入における中国のシェアが低下するのか、またグローバルサプライチェーンの見直しが進むのか考察する。

図表1 世界貿易



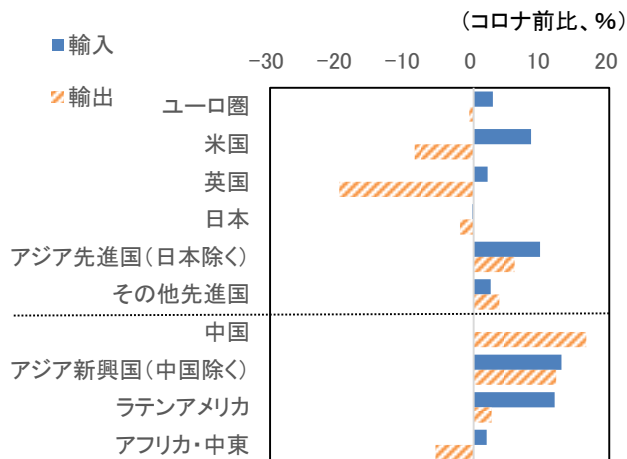
(資料)オランダ統計局

## 2. 世界貿易・生産の回復状況

まず、オランダ統計局のデータを用いて世界貿易(実質輸出・輸入の平均値)の回復状況を概観する。2021年7～9月期の世界貿易はコロナ前(2019年10～12月)水準を+3.7%上回るまで回復した(前頁図表1)。2021年1～3月期にはほぼコロナ前トレンド(2010～2019年)並みとなったが、春先以降のアジアでの新型コロナ感染再拡大により生産が停滞した結果、足元ではトレンド比▲2.2%下回っている。

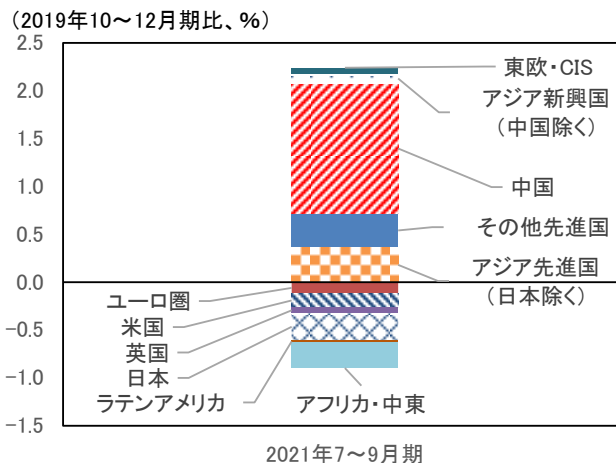
国・地域別のコロナ前比回復状況をみると、輸出は中国を中心にアジア各国がけん引する一方で、輸入はアジア先進国(日本除く)、アジア新興国(中国除く)に加えて、米国や欧州でコロナ前を上回って回復していた(図表2)。日本は他先進国と異なり、緊急事態宣言の長期化により内需が低迷した結果、輸入がコロナ前程度にとどまっている。各国の生産回復状況をみると、欧米や日本の生産がコロナ前を下回る一方で、中国を中心にアジア各国(日本除く)で大きく改善しており(図表3)、総じてみればアジアの生産回復が欧米の輸入拡大を支え、コロナ禍における貿易回復をけん引している。

図表2 コロナ前と比べた輸出入の回復状況



(資料)オランダ統計局

図表3 コロナ前と比べた生産変化



(資料)オランダ統計局

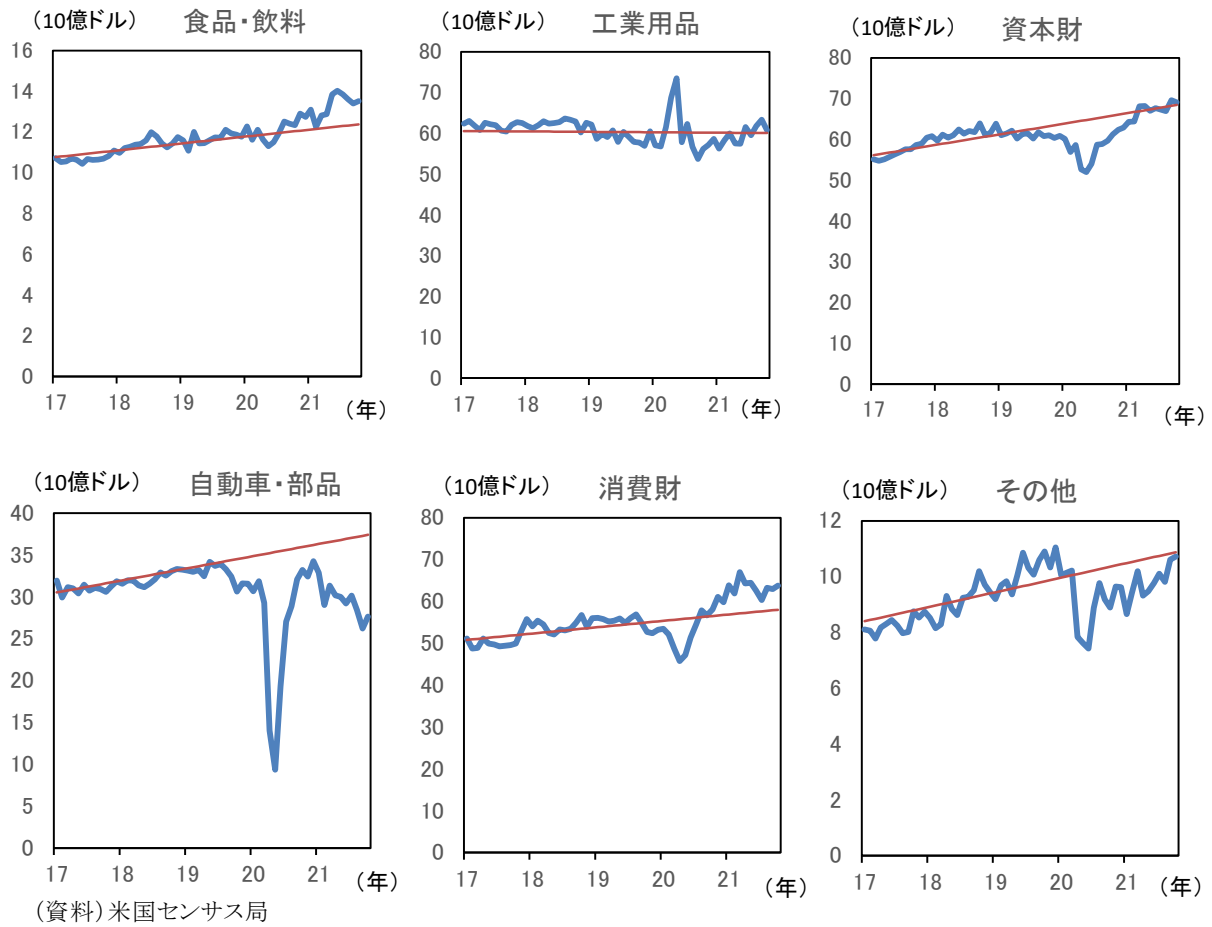
## 3. 米中貿易

### (1)米国の輸入動向

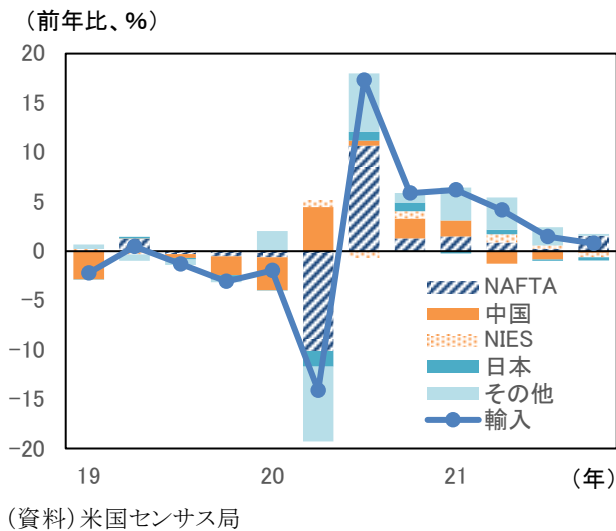
次に、米国の貿易統計を用いて対中国を中心に輸入の詳細をみる。米国の輸入全体については、大規模な金融・財政政策を支えに家計消費財が急回復したことから、食料・飲料や消費財がコロナ前トレンドを大幅に上回って回復している(次頁図表4)。他方、世界的な半導体不足により自動車輸入は激減、人手不足や先行き不透明感が強い中で生産・設備投資の回復が遅れているため工業用品や資本財もトレンド並みの回復にとどまっている。

国別にみると、衛生品やパソコンなどのコロナ特需が発生した2020年に中国からの輸入が急回復したものの、2021年4～6月期以降縮小が続いている(次頁図表5)。代わりにカナダやメキシコ、台湾などからの輸入が増加しており、米国の輸入における中国依存度はコロナ禍以降、低下している(次頁図表6)。

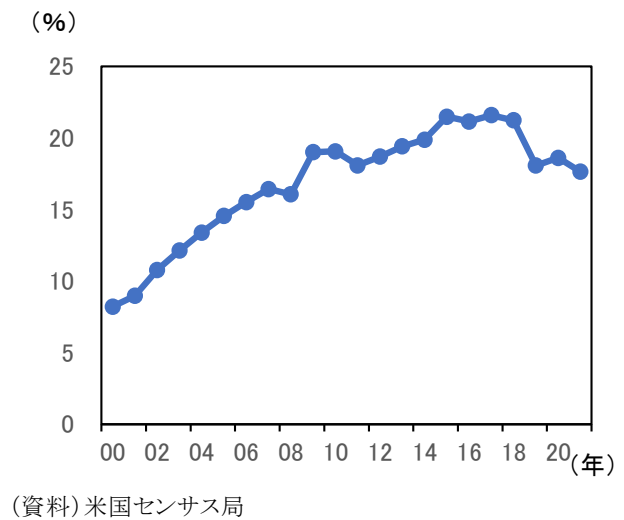
図表4 米国の財別実質輸入



図表5 米国の国別輸入



図表6 米国の輸入に占める中国シェア



## (2) 中国シェアの変化

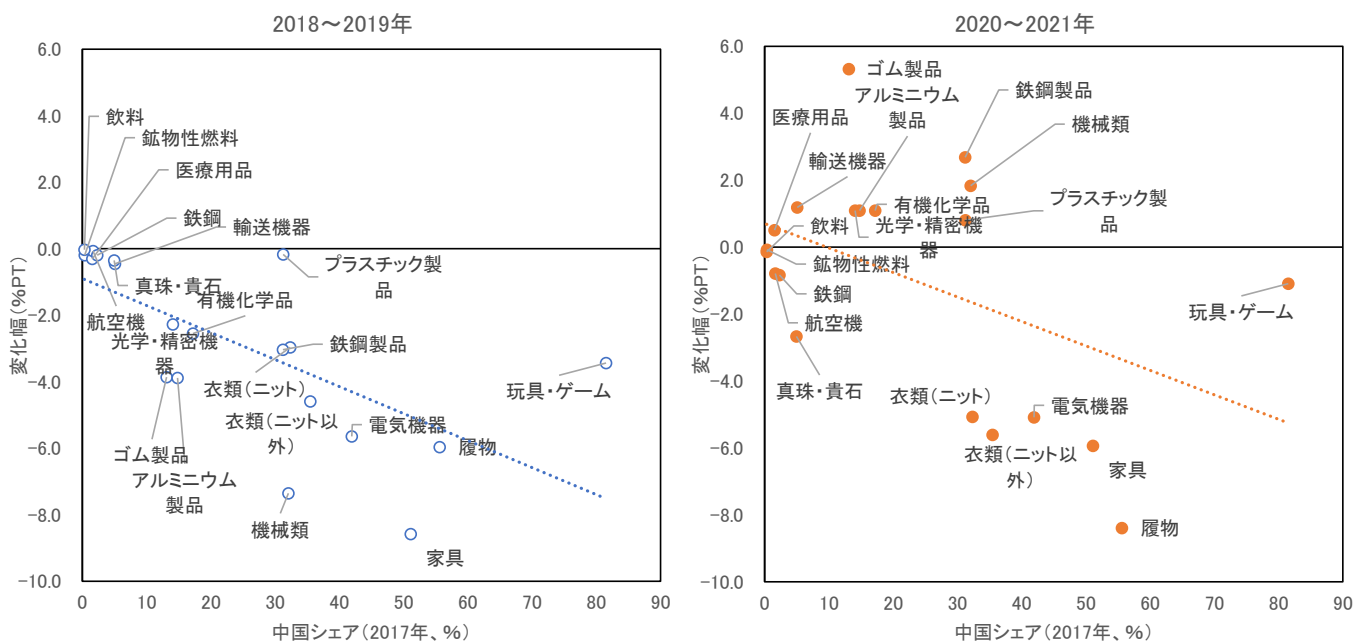
もともと、中国のシェアが2018年以降にすべての品目で低下し続けているわけではない。米国の輸入金額上位20品目(HS2桁品目分類)に占める中国比率(金額ベース)の変化を、①米中対立激化期(2018～2019年)、②コロナ禍(2020～2021年(10月まで))の2期間に分け、横軸を①②が生じる以前の中国シェア、縦軸を①②それぞれの期間の中国シェア変化(①は2017年比、②は2019年比)としてプロットしたのが図表7である。

広範囲にわたる中国製品への高関税制裁の結果、①の期間はすべての品目で中国シェアが低下していた。また、2017年時点のシェアが大きく、かつ低付加価値品が多く含まれるとみられる玩具・ゲーム(HS95)や家具(HS94)や履物(HS64)、衣類(HS61・62)などの品目の低下幅が大きかった。米中対立の焦点の一つであった機械類(HS84)や電気機器(HS85)も低下が目立った。

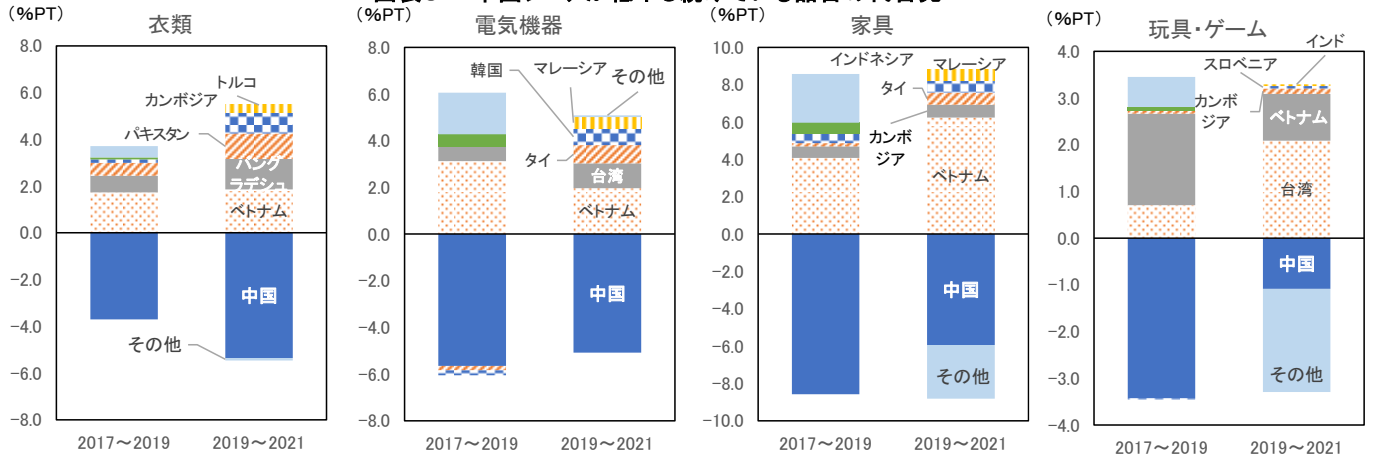
一方、コロナ禍の②の期間では、中国シェアの大きい低付加価値品を中心に低下が続いたものの、ゴム製品(HS40)や鉄鋼製品(HS73)、アルミニウム製品(HS76)、機械類(HS84)、光学・精密機械(HS90)、有機化学品(HS29)などでは中国シェアが反転上昇した。上昇に転じた品目のうち、ゴム製品は衛生対策のためのゴム手袋、機械類は在宅勤務向けパソコンに対する需要拡大に伴うもので、つまり、コロナ特需がシェア回復に寄与したものである。

上述の通り、両期間とも中国がシェアを低下させたのは低付加価値品が多く含まれる品目が中心である。そもそも、電気機器を除けば概ね2010年頃より中国のシェアが頭打ちないし緩やかな低下傾向にあった品目であり、コロナ禍の混乱がなくとも中国からその他の国に代替が進行した可能性が高い。中国からの代替先については、いずれもベトナムがシェアを拡大させている。特に電気機器で拡大が顕著で、2017年時点で中国に次ぐシェアを獲得していたマレーシアを2020年には上回った(次頁図表8)。ベトナムは中国と陸続きであることから、中国からの部品供給等で優位に立っており、そのことがコロナ禍に伴うグローバルサプライチェーンの分断にもかかわらず迅速な代替に対応できた主な要因である。ベトナム以外の国をみると、概ね従来から一定程度のシェアを持つ国が中国のシェアを奪う形で幅広くシェアを拡大した。

図表7 米国の輸入に占める中国シェアの変化(HS2桁分類)

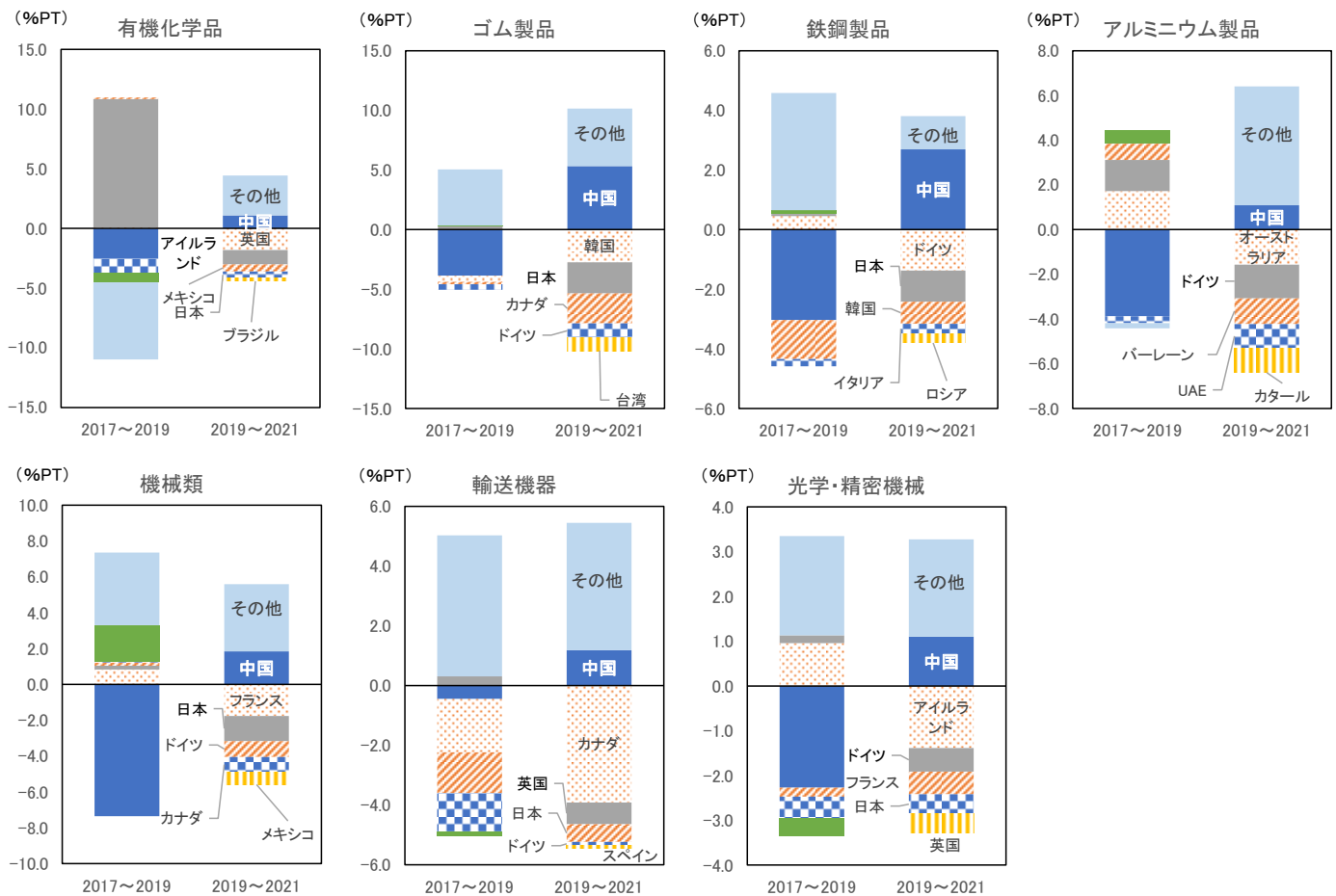


図表8 中国シェアが低下し続けている品目の代替先



(資料)米国センサス局

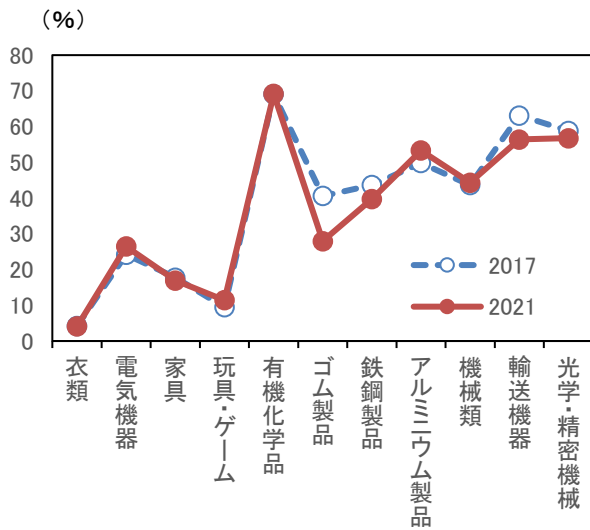
図表9 中国シェアがコロナ禍で回復した品目の国別シェア変化



(資料)米国センサス局

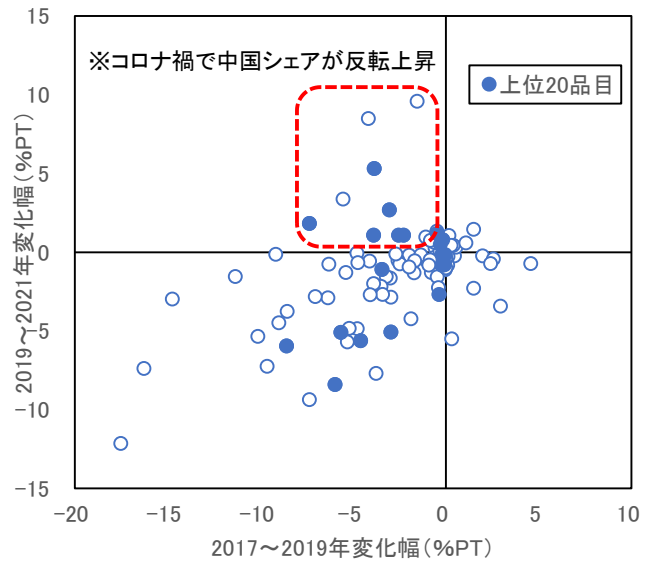
コロナ禍で中国シェアが上昇に転じた品目については、コロナ特需が後押しした面がありつつも、米国の輸入に占める比率が高い先進国で生産回復が遅れたことで、輸入元が先進国から中国にシフトした様子が確認できる(図表9、次頁図表10)。①②期間ともに中国シェアが低下した品目に比べると、②の期間に中国のシェアが反転上昇した品目は少ない(次頁図表11)。先進国ではコロナ感染の波が繰り返されることで人々の職場復帰が進まないほか、移民の抑制などにより人手不足状態が長期化する懸念が高まっている。人手不足により先進国の生産停滞が続けば、これら品目で先進国から中国への生産シフトが定着化する可能性がある。

図表 10 米輸入品目別の先進国シェア



(資料) 米国センサス局

図表 11 米輸入品目別の中国シェア変化



(資料) 米国センサス局

#### 4. まとめ

以上で整理したように、総じてみれば米国の輸入における中国依存度は低下している。中国のシェアが低付加価値品で低下する傾向はコロナ禍がなくても生じていたと考えられ、今後もペースの変動は伴いつつも、低下傾向が続くとみる。一方で、いくつかの品目では、先進国の生産回復の遅れや人手不足の解消が進まないことなどにより、中国が引き続きシェアを伸ばす可能性が窺われた。中国は生産の高付加価値化を進めており、技術力の向上に伴いシェアを拡大させる品目が広がることも予想される。米国は人権問題や安全保障の問題から中国への制裁を強めているが、これらの変化に鑑みると、グローバルサプライチェーンの見直しは中国以外への拠点シフトが進むだけでなく、中国が新たな領域でサプライチェーンに組み込まれる可能性もありそうだ。

(調査部 シニアエコノミスト 大和 香織 : Yamato\_Kaori@smtb.jp)

※ 調査月報に掲載している内容は作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、執筆者個人の見解であり、当社の公式見解を示すものではありません。